

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2272300738		
法人名	医療法人財団百葉の会		
事業所名	グループホームわたしの家 1階		
所在地	静岡県富士市大淵352-2		
自己評価作成日	令和1年9月22日	評価結果市町村受理日	令和元年11月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2272300738-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2272300738-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年10月2日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・残業時間の削減・年休取得・計画休暇の取得を年間目標に掲げ、働きやすい職場環境の改善に努めています。毎月運営会議にて進捗確認を定期的実施し、昨年度より圧倒的な時間外の削減・年休や特別休暇の取得ができています。又年4回の家族会も3年目となり企画としての仕組みが定着してきており、ご家族と利用者様、職員との交流を行い、入居前の知らなかった出来事を教えて頂き、情報共有の場ともなっており新たな発見も得られ、いつもと違う「いきいき」とした利用者様の表情を見て、職員のやりがいにも繋がっています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

目前に母体病院があるとの立地にも支えられ、毎年何かにチャレンジし、小さくとも着実に成果を収めることが出来る事業所です。昨年度の外部評価を通じて持った目標「子どもたちとの接点を更に増やす」ことは、事業所主催の「七夕の会」に招く放課後児童クラブの子ども達にプレゼントを手渡しシチュエーションをつくり、児童クラブからは歌の披露や折り紙作品が届けられ、子どもたちとのふれあいに嬉しくて泣いてしまう利用者もいた程です。また精力的に時間外の削減を推し進め、連続休暇もとりにやすい環境を整えて職員の定着率を高める中、年4回の家族会も定着させていて、職員一丸となりマックスなパフォーマンスを繰り広げています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関先に理念の掲示を行っており、下期・上期の自己評価の際、理念に沿った仕事が出来ているかの評価を実施し個人面談等を通じて確認しています。	個別外出のほか、ちょっとした空き時間に歌やレクリエーションで利用者を愉ませることができる職員は、馴染みの曲をCDに組む等の積極性も見せており、管理者は理念「ゆったりのんびり自分らしく」の浸透を強く感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の「つぼみの会」「団地祭り」等へ参加させて頂いております。	児童クラブとの交流は青葉台地区福祉推進会の協力により13年間継続されていることもあり、直接ふれあう機会は今後も続けていきたいとしています。また本年の様子は静岡新聞、富士ニュースにも掲載され職員の士気に実っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年地域の中・高生のサマーショートボランティアの受け入れ、職員が認知法サポーター(4名)となり活動を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議を実施ご家族代表者・民生委員さんなどへ施設内勉強会実践報告や備蓄の整備についてこやまケア研究発表の事例報告等施設での取り組みを報告しています。	日頃の状況、思いもかけずの事故や研修等、事業所の取組みがよく判る丁寧な議事録からは、本件への真摯さが伝わります。また豊富な外出は、ダイレクトに写真で報告が挙がることで出席者の感想も引き出されて、場を盛り上げることに役負っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1度の運営会議内にて、定期的な介護保険課職員の方や地域包括の参加がある。相談等がある際はその都度電話や窓口で相談をしに伺っている。	地域包括支援センターからの要請で、先月も青葉台小学校3年生を対象とした認知症サポーター養成講座を開催しています。今回で3回目となり、キャラバンメイトも事業所内に4名おり、行政の期待に応えることができる体制を整えています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会にて2か月に1回会議を実施、勉強会も定期的開催しています。報告事項は全体会議にて職員周知を行っています。	身体拘束適正化委員会では、ふらつきのある利用者へのセンサーの必要性等が具体的に検討されています。内容は委員ではない職員にも周知徹底されるとともに、法人富士事業部4事業所においても同委員会を発足、研修やムービー作成にと意欲的な活動を続けています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を年間計画に組み込んでいます。入浴時等お客様の身体観察に努めています。アザ等を発見した際は、インシデント報告書に記載するようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修へ参加し学ぶ機会を作っている。特に管理者・介護支援専門員は研修等を通じて社会資源が活用できる様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の日時等、利用者ご家族のご都合に合わせて余裕のある時間で設定し、説明を同意を頂いている。説明後疑問や質問時間を設け、内容をご理解して頂いているかの確認を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の要望等には迅速に対応を行う様に努めております。年4回の家族会の際も昼食の時間を使い、お客様やご家族様の声を聴くように努めています又お客様アンケートを年1回実施し、お客様の声に答えております。	年4回の家族会(いちご狩り、夕涼み会、敬老会、クリスマス会)は盛況で、ひ孫までが加わっており、相互に新しいエピソードを確認できる貴重な場と成っています。また通信のほかブログも月14件を目標として掲載、家族からは「～が見れて嬉しい」「楽しみ」との声が届いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の運営会議や職員全体会議内にて職員の意見や提案を聞き、反映を行っています。	全体会議では議題や委員会の報告資料が事前に配布されていて、各自意見をもって臨んでます。職員にアイデアを募って時間外の削減ができた例もあり、定着率の高まりが後押しとなり年休や連続休暇取得が推進され、一人ひとりに余裕も生まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤怠システム導入により、労働時間や時間外等の管理が行いやすい仕組みになっています。評価制度や昨年よりリーダー・副主任手当でも創設されスキルアップのきっかけともなっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間で研修参加計画をたてて、研修参加への促しを行なっている。入職者や異動職員に対しプリセプターを付けOJTチェックシートを用いてトレーニングを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会へ参加、他事業所との交流会を開催、意見交換をしサービスの向上に努めており、法人の富士・伊東事業部間にて身体拘束廃止に向けた取り組みを通じて交流を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設へ出向きCMや相談員へケアの詳細や注意点をお聞きしたり、お客様本人、ご家族と面談をし生活状況の把握やご要望をお聞きし安心して生活をして頂けるよう配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お客様本人や、ご家族には、要望等いつでもご相談いただける様、関係づくりを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の置かれている状況等を家族や入所施設へ伺い情報共有を行いながら、その方に合ったサービス提供が行えるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様の目線に合わせ会話をし、時には冗談を言い合いながらお互いに笑い、馴染みの関係となれるような関係づくりを行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当職員が毎月お便りを発行、その月の企画やGHでの生活の様子を写真に乗せ報告、1ヶ月のお体の様子もお伝えしています。面会時にも対応職員が生活状況や身体面での様子を報告しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に制限がないかの確認を入居時や来訪時にご家族へ伺い、可能な限り対応しています。意思疎通が図れないお客様に対しては職員が言葉の橋渡しを行ったり、生活状況等について報告を行っています。ご家族へも来訪時の様子を伝えていきます。	親戚の集まりでお酒を飲んできたというエピソードのほか、正月に自宅へ戻ったり、1～2ヶ月ごとに娘と出かける人もいます。喫茶店や合唱団鑑賞と、本人が好きな事やこれまでの暮らしの場面が続くよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	企画の実施時や歌の会(ボランティア・職員)等1・2階のお客様との交流の機会を作っており、日常的に、2階の利用者様が1階へ訪問してお話を弾ませたりされる機会もあります。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前は退去されやご家族の来設があったが現在はいない状況です。今後その様な事がある際は暖かく対応していきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	想いや希望を伝えられないお客様にはご家族に伺いながら。プランへサービスの反映を行い提供をしています。希望を書き留めノートの記入と企画の実施を行っています。	事業所目標「(利用者の)夢や希望を叶えること」から始まった「まるこノート」も3年目となり、日常業務に定着しています。普段の会話での何気ない言葉を逃さず、その人の願いを叶えようと取組み、回転寿司などの外出企画へとつなげています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご自宅や、施設に伺い本人やご家族に聞き取り調査を行い、入居前アセスメントシートに聞き取った情報をまとめ、申し送りに書類添付を行い、職員閲覧し状況把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録にケアプランを挟み、常時確認できる仕組みにしています。食事・バイタルチェック表を壁掛けにして気になるときはすぐに確認できるようになっており状態把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族への電話連絡や面会、ケアプラン説明時等 ご要望を伺う、答えられるお客様には何気ない会話にて聞き取りを行っています。	第2表のサービス内容は、担当者の評価と職員意見を赤文字にして、前回からの変更点が一目で判るようにしています。また必要に応じて作業療法士の助言も介護計画書に反映させ、写真を添えての「見える化」を配しての実践も特長的で優れている点です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録へ日常の様子を詳細に記録しています。毎日行うサービス内容は毎日実施出来たかをチェックし、6か月の計画書見直しの為の作成時に反映を行っています。申し送り記録にも体調が気になる方の欄を設け申し送りを行う様努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急変時等、ご家族へ早急に連絡を入れ病院受診時職員受診同行など、柔軟な対応を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育室の子供たちの来訪があり(敬老会やハロウィン等)地域の子供たちも七夕の会等で訪問があります。ご利用者は飛び切りの笑顔でお迎えしていただきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、本人やご家族様の同意を得て訪問診療を受けています。外来受診が必要な際は訪問診療後に早急に検査を実施して下さっています。又ご家族様へも随時電話や毎月のお便りにて状況報告を行っています。	目前に母体病院がある立地なこともあり、在宅の頃からのかかりつけ医を継続するのは1名です。他17名は協力医の訪問診療を受け、内容はどちらの場合も受審記録に残して、共有しています。隔週で訪れる看護師も、医師と連携を図ってくださり、心強い存在です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護記録シートにて、日常の様子や相談を記載し、2週に1回訪問看護師に観察をして頂いており、主治医へ報告を行い受診や訪問診療へ繋げて下さっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お客様が入院した際は、定期的に面会へ行き担当医師や看護師へ状況を伺い、連携に努め退院までの調整を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医よりご家族説明がされ、管理者・施設ケアマネージャーも同席させて頂き、終末期の方針について共通認識を行いようとしています。職員へも申し送りや職員会議を通じ情報の共有を行っています。	入居に際しては家族に延命についても口頭確認しています。整った医療体制を基盤に看取り加算を算定し取組めるもここ3年程実績はありません。経験者は多いとは言えませんが、夜勤に就く基準として「ターミナルについて学ぶ」ことを前提としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時もマニュアルを整備しており、内容も定期的に変更しております。夜勤業務導入時には急変時の対応の勉強会、看取りについての勉強会を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会にて年間計画に沿い、訓練が出来ている。安否コールテストを定期的に行い、備蓄整備や発電機操作を行い災害対策強化に努めています。	発電機操作、安否コールシステム、備蓄整備は2ヶ月ごとに実施するとともに、地震火災想定、夜間想定・防犯、水害、連絡網と、年4回丁寧に訓練を重ねています。すべて防災委員会(4名)が企画し、新人職員は必ず参加できるよう実施しており、熱意が伝わる取組みが見られます。	訓練数も多く、また法人管理部に設備管理課が発足したことで備蓄管理が一層強化されていますが、消防署職員の立合いを求め、専門家の指導並びに助言を仰ぐことができれば、なお良いと思います。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様へのプライバシーや羞恥心へ対応見守り時の声掛け等に配慮する様、職員間で心がけています。同姓介助希望のご利用者様への配慮も行っています。	まるこ委員会のメンバーでチェック表の項目を決め(10項目)、毎月の全体会議を通じて自己評価をおこない振り返りをしています。声を上げた利用者の下に「はい」と迅速に歩み寄り、「どうされました」「～は大丈夫ですか」と尋ねる場面に遭遇、礼儀正しい様子に安心感を覚えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常での会話の中から、お客様の思いや希望をくみ取れる様、コミュニケーションを常に取っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一律にケアを行うのではなく、お客様の生活リズムに合わせ、職員も同様にお客様と関わられる様に努めています。お客様の声を大切にしている取り組みを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の天候や気分、外出時等に配慮した服選びを行っている。美容師さんが施設へ来訪して下さりカットやカラーをして下さり隣接する病院内の、美容室へ行きカットを受ける事もあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様に配慮した盛り付けを行っている(好き嫌いや丼物は嫌い等)食後は片づけや食器拭きをお手伝いして頂く場面もあります。	業者から調理法付きの食材配達があり、職員が手作りしています。また「我が家の台所」と名付けた食イベントが年6回あり、母の日御膳、うなぎまぶし、見て楽しめるお子様ランチ、おせち料理などが提供されています。常には食器やお盆を拭きを手伝う利用者の姿もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランスについては食材会社を利用している事により確保が出来ていません。食事量や水分摂取量は記録へ記載し、申し送りにて情報共有をし、気になる点は訪問看護師や主治医へ相談を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日(3回)口腔ケアを行っています。お客様ご自身で歯磨きを行う際もさりげなく観察をし、不十分な際は声を掛けたり職員が仕上げ磨きを行います。口腔内の相談は訪問歯科へ行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お客様に合わせた排泄パターンを把握しなるべくご自身のパンツで過ごして頂ける様検討しています。全介助のお客様に対しては、職員2名にて立ち上がりの介助を行い、トイレでの排泄が出来る様ケアを行っています。	パッドやおむつ等の消費は家族の負担にもなるため、排泄の確認をこまめにしながら、パッド小、大など排泄用品は1種類と決めています。また夜間の汚染回数が多い人は日中パッドを使わない等排泄用品に頼るのは時間限定として、少しでも実費負担を減らすよう工夫しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給に努めています。散歩が毎日の日課としていたり、排便を促すため歩行をケアプランに反映したりと取組を実施しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調不良やバイタルの状況以外は特に曜日等の制限はなく、お客様のご要望に沿えるように対応しています。	週2回の入浴と個々の湯の入れ替えを清潔の目安としつつも、「毎日入りたい」希望にも応えており、また好みのシャンプー、保湿剤、化粧水へこだわりある入浴セットが個人用のカゴに収められている事からも本人本位でおこなっていることが視えます。	イベント企画が上手で、業務への意欲も高い職員集団であることから、お風呂も「〇〇の日」といったお楽しみが増えると、なお良いと思います。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の状況や状態に合わせて休息や、就寝のタイミングを計り対応を行っています。日中は体操やレクリエーションの活動時間を作っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の変更があった際は、申し送りファイルに処方箋のコピーを添付し、気を付ける点などは記載し、職員間で情報の共有に努め、生活記録ファイルに処方箋を綴じいつでも気になる際は確認できる様になっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動を行って下さった際など、お客様へ感謝の言葉を伝える事が、職員間で浸透しています。ご家族より依頼を受けた嗜好品等の管理や提供を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日企画ではご利用者様ご家族へも参加の促しを行う事もあります。ご利用者様の希望を書き留めた「まるこノート」より発展した企画も立案し実施しています。	午前を活動の時間として病院外周や院内の売店を散歩コースとし、年間の外出行事としては家族とのいちご狩りをメイン企画としています。またミキサー食となった人とは評判のプリン屋を訪ねるといった、個人の意向や体調に合わせた個別外出を得意としています。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の方針にて、ご自身で現金を持っている事お預かり金を施設内で預かる事は、行っておりません。企画時やお客様からのご要望、ご家族からのご要望がある際はご家族より同意を得て、施設の立て替えとして対応させて頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在電話のやりとりを希望される利用者様はおりませんが、手紙のやりとりは、手紙の投函依頼を受け職員が対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明交換は男性職員へ依頼し、高所や、難しい作業が伴う内容については、隣接する病院の修繕の担当者への依頼を行っている。四季を感じていただける様、フォト掲示や壁面の飾りを工夫しています。	利用者の手で編まれた色鮮やかなテーブルセンターが陽ざしを浴び、より一層共用空間を穏やかな空気で満たしています。また役割やエリアを決めて取組む清掃を以て清潔で、本年は1階共用部分のエアコンを新しく入れ替えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内にベンチやソファーが設置してあり、一人でくつろいだり、職員やお仲間同士でおしゃべりに花を咲かせる場面もあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していた馴染みの物を持参していただける様に、ご依頼を行っています。	テレビやソファー、仏壇が置かれる居室もありますが、近年は簡易な衣装ケースの持ち込みが増えて殺風景になりがちなことを鑑み、職員が敬老会や誕生日にプレゼントした手作りの小物や色紙と、小さなくても温かみを感じられるような装飾で工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様が自立し、危険が無いように生活が出来る様、動線の確保に注意をしています。手すり等の変更や追加も男性職員が担当となり、適宜行っています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2272300738		
法人名	医療法人財団百葉の会		
事業所名	グループホーム わたしの家 2階		
所在地	静岡県富士市大淵352-2		
自己評価作成日	令和1年9月22日	評価結果市町村受理日	令和元年11月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2272300738-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2272300738-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年10月2日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・残業時間の削減・年休取得・計画休暇の取得を年間目標に掲げ、働きやすい職場環境の改善に努めています。毎月運営会議にて進捗確認を定期的実施し、昨年度より圧倒的な時間外の削減・年休や特別休暇の取得ができています。又年4回の家族会も3年目となり企画としての仕組みが定着してきており、ご家族と利用者様、職員との交流を行い、入居前の知らなかった出来事を教えて頂き、情報共有の場ともなっており新たな発見も得られ、いつもと違う「いきいき」とした利用者様の表情を見て、職員のやりがいにも繋がっています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

目前に母体病院があるとの立地にも支えられ、毎年何かにチャレンジし、小さくとも着実に成果を収めることが出来る事業所です。昨年度の外部評価を通じて持った目標「子どもたちとの接点を更に増やす」ことは、事業所主催の「七夕の会」に招く放課後児童クラブの子ども達にプレゼントを手渡しシチュエーションをつくり、児童クラブからは歌の披露や折り紙作品が届けられ、子どもたちとのふれあいに嬉しくて泣いてしまう利用者もいた程です。また精力的に時間外の削減を推し進め、連続休暇もとりにやすい環境を整えて職員の定着率を高める中、年4回の家族会も定着させていて、職員一丸となりマックスなパフォーマンスを繰り広げています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関先に理念の掲示を行っており、下期・上期の自己評価の際、理念に沿った仕事が出来ているかの評価を実施し個人面談等を通じて確認しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の「つぼみの会」「団地祭り」等へ参加させて頂いております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年地域の中・高生のサマーショートボランティアの受け入れ、職員が認知法サポーター(4名)となり活動を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議を実施ご家族代表者・民生委員さんなどへ施設内勉強会実践報告や備蓄の整備についてこやまケア研究発表の事例報告等施設での取り組みを報告しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1度の運営会議内にて、定期的な介護保険課職員の方や地域包括の参加がある。相談等がある際はその都度電話や窓口にご相談をしに伺っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会にて2か月に1回会議を実施、勉強会も定期的開催しています。報告事項は全体会議にて職員周知を行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を年間計画に組み込んでいます。入浴時等お客様の身体観察に努めています。アザ等を発見した際は、インシデント報告書に記載するようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修へ参加し学ぶ機会を作っている。特に管理者・介護支援専門員は研修等を通じて社会資源が活用できる様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の日時等、利用者ご家族のご都合に合わせて余裕のある時間で設定し、説明を同意を頂いている。説明後疑問や質問時間を設け、内容をご理解して頂いているかの確認を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の要望等には迅速に対応を行う様に努めております。年4回の家族会の際も昼食の時間を使い、お客様やご家族様の声を聴くように努めています又お客様アンケートを年1回実施し、お客様の声に答えております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の運営会議や職員全体会議内にて職員の意見や提案を聞き、反映を行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤怠システム導入により、労働時間や時間外等の管理が行いやすい仕組みになっています。評価制度や昨年よりリーダー・副主任手当でも創設されスキルアップのきっかけともなっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間で研修参加計画をたてて、研修参加への促しを行なっている。入職者や異動職員に対しプリセプターを付けOJTチェックシートを用いてトレーニングを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会へ参加、他事業所との交流会を開催、意見交換をしサービスの向上に努めており、法人の富士・伊東事業部間にて身体拘束廃止に向けた取り組みを通じて交流を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設へ出向きCMや相談員へケアの詳細や注意点をお聞きしたり、お客様本人、ご家族と面談をし生活状況の把握やご要望をお聞きし安心して生活をして頂けるよう配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お客様本人や、ご家族には、要望等いつでもご相談いただける様、関係づくりを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の置かれている状況等を家族や入所施設へ伺い情報共有を行いながら、その方に合ったサービス提供が行えるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様の目線に合わせ会話をし、時には冗談を言い合いながらお互いに笑い、馴染みの関係となれるような関係づくりを行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当職員が毎月お便りを発行、その月の企画やGHでの生活の様子を写真に乗せ報告、1ヶ月のお体の様子もお伝えしています。面会時にも対応職員が生活状況や身体面での様子を報告しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に制限がないかの確認を入居時や来訪時にご家族へ伺い、可能な限り対応しています。意思疎通が図れないお客様に対しては職員が言葉の橋渡しを行ったり、生活状況等について報告を行っています。ご家族へも来訪時の様子を伝えていきます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	企画の実施時や歌の会(ボランティア・職員)等1・2階のお客様との交流の機会を作っており、日常的に、2階の利用者様が1階へ訪問してお話を弾ませたりされる機会もあります。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前は退去されやご家族の来設があったが現在はいない状況です。今後そのような事がある際は暖かく対応していきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	想いや希望を伝えられないお客様にはご家族に伺いながら。プランへサービスの反映を行い提供をしています。希望を書き留めノートの記入と企画の実施を行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご自宅や、施設に伺い本人やご家族に聞き取り調査を行い、入居前アセスメントシートに聞き取った情報をまとめ、申し送りに書類添付を行い、職員閲覧し状況把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録にケアプランを挟み、常時確認できる仕組みにしています。食事・バイタルチェック表を壁掛けにして気になるときはすぐに確認できるようになっており状態把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族への電話連絡や面会、ケアプラン説明時等 ご要望を伺う、答えられるお客様には何気ない会話にて聞き取りを行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録へ日常の様子を詳細に記録しています。毎日行うサービス内容は毎日実施出来たかをチェックし、6か月の計画書見直しの為の作成時に反映を行っています。申し送り記録にも体調が気になる方の欄を設け申し送りを行う様努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急変時等、ご家族へ早急に連絡を入れ病院受診時職員受診同行など、柔軟な対応を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育室の子供たちの来訪があり(敬老会やハロウィン等)地域の子供たちも七夕の会等で訪問があります。ご利用者は飛び切りの笑顔でお迎えてくださいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、本人やご家族様の同意を得て訪問診療を受けています。外来受診が必要な際は訪問診療後に早急に検査を実施して下さっています。又ご家族様へも随時電話や毎月のお便りにて状況報告を行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護記録シートにて、日常の様子や相談を記載し、2週に1回訪問看護師に観察をして頂いており、主治医へ報告を行い受診や訪問診療へ繋げて下さっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お客様が入院した際は、定期的に面会へ行き担当医師や看護師へ状況を伺い、連携に努め退院までの調整を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医よりご家族説明がされ、管理者・施設ケアマネージャーも同席させて頂き、終末期の方針について共通認識を行いようとしています。職員へも申し送りや職員会議を通じ情報の共有を行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時もマニュアルを整備しており、内容も定期的に変更しております。夜勤業務導入時には急変時の対応の勉強会、看取りについての勉強会を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会にて年間計画に沿い、訓練が出来ている。安否コールテストを定期的実施、備蓄整備や発電機操作を行い災害対策強化に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様へのプライバシーや羞恥心へ対応見守り時の声掛け等に配慮する様、職員間で心がけています。同姓介助希望のご利用者様への配慮も行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常での会話の中から、お客様の思いや希望をくみ取れる様、コミュニケーションを常に取っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一律にケアを行うのではなく、お客様の生活リズムに合わせ、職員も同様にお客様と関わられる様に努めています。お客様の声を大切にしている取り組みを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の天候や気分、外出時等に配慮した服選びを行っている。美容師さんが施設へ来訪して下さりカットやカラーをして下さり隣接する病院内の、美容室へ行きカットを受ける事もあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様に配慮した盛り付けを行っている(好き嫌いや丼物は嫌い等)食後は片づけや食器拭きをお手伝いして頂く場面もあります。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランスについては食材会社を利用している事により確保ができています。食事量や水分摂取量は記録へ記載し、申し送りにて情報共有をし、気になる点は訪問看護師や主治医へ相談を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日(3回)口腔ケアを行っています。お客様ご自身で歯磨きを行う際もさりげなく観察をし、不十分な際は声を掛けたり職員が仕上げ磨きを行います。口腔内の相談は訪問歯科へ行っています。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お客様に合わせた排泄パターンを把握しなるべくご自身のパンツで過ごして頂ける様検討しています。全介助のお客様に対しては、職員2名にて立ち上がりの介助を行い、トイレでの排泄が出来る様ケアを行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給に努めています。散歩が毎日の日課としていたり、排便を促すため歩行をケアプランに反映したりと取組を実施しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調不良やバイタルの状況以外は特に曜日等の制限はなく、お客様のご要望に沿えるように対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の状況や状態に合わせて休息や、就寝のタイミングを計り対応を行っています。日中は体操やレクリエーションの活動時間を作っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の変更があった際は、申し送りファイルに処方箋のコピーを添付し、気を付ける点などは記載し、職員間で情報の共有に努め、生活記録ファイルに処方箋を綴じいつでも気になる際は確認できる様になっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動を行って下さった際など、お客様へ感謝の言葉を伝える事が、職員間で浸透しています。ご家族より依頼を受けた嗜好品等の管理や提供を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日企画ではご利用者様ご家族へも参加の促しを行う事もあります。ご利用者様の希望を書き留めた「まるこノート」より発展した企画も立案し実施しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の方針にて、ご自身で現金を持っている事お預かり金を施設内で預かる事は、行っておりません。企画時やお客様からのご要望、ご家族からのご要望がある際はご家族より同意を得て、施設の立て替えとして対応させて頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在電話のやりとりを希望される利用者様はおりませんが、手紙のやりとりは、手紙の投函依頼を受け職員が対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明交換は男性職員へ依頼し、高所や、難しい作業が伴う内容については、隣接する病院の修繕の担当者への依頼を行っている。四季を感じていただける様、フォト掲示や壁面の飾りを工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内にベンチやソファが設置してあり、一人でくつろいだり、職員やお仲間同士でおしゃべりに花を咲かせる場面もあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していた馴染みの物を持参していただける様に、ご依頼を行っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様が自立し、危険が無いように生活が出来る様、動線の確保に注意をしています。手すり等の変更や追加も男性職員が担当となり、適宜行っています。		